

教員の研究・教育・社会活動等

江口秀子

著書（分担執筆）

1. 江口秀子. 臨床判断プロセスの特徴. 明石恵子, 益田美津美編 急性期看護:クリティカルケア. メヂカルフレンド社 2017, 128-32.

原著（査読あり）

1. 江口秀子, 明石恵子. 救急部で勤務する看護師の臨床判断の実態, および救急経験年数と所属施設の救急医療体制との関連. 日本クリティカルケア看護学会誌. 2017, 3, 49-60.

学会発表

1. 伊藤美和, 明石恵子, 森木ゆう子, 江口秀子, 大川滋美. 急性・重症患者看護専門看護師の倫理的行動修得のプロセス. 第13回日本クリティカルケア看護学会学術集会(仙台). 2017.
2. 桑原由美, 森脇美美, 江口秀子. 手術を受けた後期高齢者の回復意欲を促進する要因. 第48回日本看護学会 急性期看護(岐阜). 2017.
3. 松本莉可子, 江口秀子. 認知症高齢者のケアにおいて看護師が感じるジレンマ. 第48回日本看護学会 精神看護(松江). 2017.
4. 森木ゆう子, 明石恵子, 江口秀子, 伊藤美和, 大川滋美. 救急部門に配属された新卒看護師の就職半年後における倫理的問題への対応能力. 第19回日本救急看護学会学術集会(金沢). 2017.
5. 平野絵美, 井上千代, 江口秀子. 急性期病院における退院支援を受けた患者・家族の思い. 第5回大阪看護学会(大阪). 2017.

社会活動

1. 江口秀子. 日本救急看護学会主催:救急看護研究セミナー(初級編)企画・ファシリテーター(大阪). 2018.

奥野久美子

原著（査読あり）

1. 奥野久美子, 杉原トヨ子. 在宅看護と家族に関する文献検討. 大阪青山大学看護学ジャーナル. 2017, 1, 45-54.

学会発表

1. 鈴木裕子, 原田光子, 奥野久美子. 地域包括ケアシステムを担う人材育成 プライマリケア実習の実践 第6回公衆衛生看護学会学術集会(大阪). 2018.
2. 鈴木裕子, 原田光子, 奥野久美子. ワークショップ 地域包括ケアを担う人材育成のための学習方法. 第6回公衆衛生看護学会学術集会(大阪). 2018.

小畑俊男

研究業績

1. Obata T, Nakashima M. Environmental estrogen-like substances enhances 1-Methyl-4-phenylpyridinium ion-induced hydroxyl radical generation in rat striatum. *Mathews Journal of Anesthesia*. 2017, 1, 1-4.

国際学会発表

1. Obata T. Protective effect of histidine on para-nonylphenol enhances 1-methyl-4-phenylpyridinium ion-induced hydroxyl free radical generation in rat striatum. 3rd International Conference on Central Nervous System Disorders and Therapeutics (Vienna) 2017.

片山洋子

原著（査読有り）

1. Sugawa-Katayama Y, Oku K, Katayama M, Shimada R, Yamaguchi Y, Murakami K, Kamiya T, Ikeguchi M. Suppressive effect of dietary young barley leaf powder on colonic aberrant crypt foci induced by 12-dimethylhydrazine in mice. *Luminacoids Res*. 2017, 21, 9-18.

国際会議

1. Katayama M, Sugawa-Katayama Y, Murakami K. Accumulation processes of nutritionally beneficial minerals in a brown algae, Hijiki (*Sargassum fusiforme*), during growth. IUNS 21st International Congress of Nutrition (Buenos Aires) 2017.
2. Murakami K, Sugawa-Katayama Y, Katayama M. Changes in arsenic content in the different organs of seaweed; Akamoku, *Sargassum horneri*, after parboiling. IUNS 21st International Congress of Nutrition (Buenos Aires) 2017.
3. Shimada R, Katayama M, Takano A, Sugawa-Katayama Y. Effect of the particle size of young barley leaf powder on intestinal bacterial flora in rats. IUNS 21st International Congress of Nutrition (Buenos Aires) 2017.
4. Toda Y, Sugawa-Katayama Y, Matsumoto S, Kasahara H, Hasegawa H. Significance of supplying of information about the change of potassium contents in vegetables by cooking the course of nutritional guidance for dialysis patients. IUNS 21st International Congress of Nutrition (Buenos Aires) 2017.

学会発表

1. 島田良子, 片山（須川）洋子, 海老原清. グアーガム酵素分解物およびレジスタントスターチ摂取が及ぼす大腸中 GLP-1 濃度の変化. 第 71 回日本栄養・食糧学会大会（宜野湾）2017.

講演

1. 片山洋子. 栄養学に浸っての生涯現役をめざして. 大阪市立大学生活科学部食品栄養科学科同窓会.

大阪駅前第3ビル. 2018, 3.

葛場美那

研究報告

1. 葛場美那, 藤原正恵. 我が国の看護基礎教育におけるシミュレーション教育の現状とその効果に関する文献検討. 大阪青山大学看護学ジャーナル 2017, 1, 9-20.

黒澤祐介

著書

1. 黒澤祐介. 第6章 事例から学ぶ社会福祉援助技術会福祉演習 演習10 世代間のかかわり, 秋山博介, 井上美幸, 谷川和昭編 臨床に必要な社会福祉援助技術演習. 弘文堂 2007, 223-25.
2. 黒澤祐介. 第3章 持続可能な福祉コミュニティの形成, 草野篤子, 金田利子, 間野百子, 柿沼幸雄編 世代間交流効果—人間発達と共生社会づくりの視点から. 三学出版 2009, 33-43.
3. 黒澤祐介. 第5章第4節 ノーマライゼーションの実現—バリアフリー・ユニバーサルデザイン・共生型まちづくり—, 社団法人長寿文化協会 介助サービス技能検定テキスト. 日本総合企画株式会社 2009, 154-60.
4. 黒澤祐介. 第9章 ケア・コミュニティ・世代間交流. 広井良典, 小林正弥編 コミュニティ. 勁草書房 2010, 179-89.
5. 黒澤祐介. 第II部 実践編—福祉実践活動の諸相 第3章 世代間交流で支えあいをつくる. 妻鹿ふみ子編 地域福祉の今を学ぶ—理論・実践・スキル. ミネルヴァ書房 2010, 97-105.
6. 黒澤祐介. 第11章 地域福祉. 赤木正典, 平松正臣編 福祉・栄養・看護のための社会福祉論. 建帛社 2016.
7. 黒澤祐介, 服部敬子. 若手保育者が育つ保育カンファレンス. かもがわ出版 2016.

原著 (査読あり)

1. 黒澤祐介. 複合型施設における世代間交流の課題と展望. 世代間交流学研究 2006, 1, 37-45
2. 金田利子, 黒澤祐介. 発達保障と相互互惠性のある『まち』の形成—世代間交流を視座に—. 白梅学園大学・短期大学紀要 2008, 44, 15-31.
3. 黒澤祐介, 金田利子. 地域福祉の推進における多世代参画と共同の必要性—福祉コミュニティ形成をめざして—. 白梅学園大学・短期大学教育・福祉研究センター研究年報 2008, 13, 28-32.
4. 黒澤祐介, 狗巻修司, 金田利子. 保育者が感じる子どもの「気になる」姿と保育者の内部・外部条件との関連—年齢に着目して—. 白梅学園大学・短期大学教育・福祉研究センター研究年報 2009, 14, 45-53.
5. 黒澤祐介. 保育における拡大された同僚性の検討 大谷学会大谷学報 2012, 92-1, 72-82.
6. 黒澤祐介. 世代間交流がソーシャル・サポートに与える影響に関する研究 日本地域政策学会日本地域政策研究 2013, 11, 115-23.
7. 黒澤祐介. コミュニティソーシャルワークにおけるコミュニティ概念. 大谷学会大谷学報 2013,

92, 21-33.

8. 黒澤祐介. 自治町内会の世代交代に関する一考察. 大谷大学哲学会哲学論集 602014, 3, 25-35.
9. 黒澤祐介. 保育所における社会的養護機能の再検討. 大谷大学大谷学報 2014, 93, 24-36.

記事

1. 黒澤祐介. 職員同士の学びあいで大切にしたいこと—同僚性をはぐくむ保育カンファレンス—, ちいさいなかま. ちいさいなかま社 2015, 10, 34-41.
2. 黒澤祐介. 保育観はどのように育つのか. 月間保育情報 2016, 11, 1.

学会発表

1. 黒澤祐介. 世代間交流に関する研究. 関西教育学会第 56 回大会 (神戸). 2004.
2. 黒澤祐介, 築山 崇. 世代間交流が住民の相互扶助活動に与える影響に関する研究—交流活動に含まれる学習的契機をとらえる— 日本社会教育学会第 56 回大会 (東京). 2009.
3. 黒澤祐介, 服部敬子. 保育者の悩みの質と関連要因の研究 (1)—同僚性に着目して—日本保育学会第 66 回大会 (東京). 2013.
4. 黒澤祐介. 若手保育士を支える保育カンファレンス—京都市営保育所での実践と 2 年間の追跡型アンケート調査—自主シンポジウム企画者. 日本保育学会第 67 回大会 (福岡). 2014.

社会活動

1. 黒澤祐介. 京都市社会福祉協議会地域福祉推進モデル事業「大学との連携による多世代型事業の地域福祉展的展開の調査研究」研究協力者. 2008-2010.
2. 黒澤祐介. 横浜市「社会的セーフティネット形成のための政策フレームに関する研究会」オブザーバー. 2009-2010.
3. 黒澤祐介. 八幡市「地域福祉計画策定作業部会」オブザーバー. 2011-2013.
4. 黒澤祐介. 八幡市／八幡市社会福祉協議会「八幡市地域福祉推進協議会」事務局アドバイザー. 2013.
5. 黒澤祐介. 第 48 回全国保育団体合同研究集会 基調報告作成委員. 2016.
6. 黒澤祐介. 社会福祉法人はとのさと福祉会 評議員. 2017—現在.
7. 黒澤祐介. 社会福祉法人どんぐり福祉会 評議員. 2017—現在.
8. 黒澤祐介. 第 57 回全国保育問題研究集会 実行委員長. 2017—現在.
9. 黒澤祐介. 藤枝市「保育士・幼稚園教諭の働きやすい職場づくり事業」監修. 2017—現在.

助成

1. 黒澤祐介. 科学研究費助成事業 (研究活動スタート支援)「保育者の悩み・学習ニーズの変容と同僚性を基礎とした研修に関する実証的研究」研究代表者 (平成 24 年度～平成 25 年度).
2. 黒澤祐介. 科学研究費助成事業 (若手 B)「保育カンファレンスが保育者の「同僚性」に与える効果の縦断的追跡研究」研究代表者 (平成 26 年度～平成 28 年度).
3. 黒澤祐介. 科学研究費助成事業 (若手 B)「保育士の早期離職を生む構造の分析と早期離職を防ぐリカレント教育の実証的研究」研究代表者 (平成 29 年度～平成 31 年度).

小石真子

短報（査読あり）

1. 小石真子, 佐藤裕見子, 三浦康代, 村上久恵, 河原照子, 松岡みどり, 高田美子. 過疎地域における生きがい支援通所事業についての一考察～生きがい活動援助員の活動実態と互助～. 大阪青山大学看護学ジャーナル 2017, 1, 55-8.

学会発表

1. 小石真子, 古谷昭雄, 田中富美子. 喫煙に対する介護福祉施設職員の意識調査. 第76回日本公衆衛生学会総会（鹿児島）. 2017.
2. 小石真子, 古谷昭雄. 喫煙に対する教職員の意識調査. 第27回日本健康医学会総会（横浜）. 2017.
3. 田中富美子, 小石真子, 八本木晶. デイサービスにおける介護予防のためのカルタの試み 第2報. 第20回東京大会日本老年行動科学学会（東京）. 2017.
4. 古谷昭雄, 小石真子, 田中富美子, 福井梨恵, 丹野陽介. 認知症対応型共同生活介護における日常生活ケアの集団支援に関する一考察～重症化予防のためのレクリエーションの試み～. 第20回東京大会日本老年行動科学学会（東京）. 2017.

社会活動

1. 小石真子. 認知症予防講座. 健康ふみふみカルタ研究会. 2017, 6/10.
2. 小石真子. 寝たきり予防カルタ大会. 和朗園. 2017, 9/9.
3. 小石真子. 健康ふみふみカルタ普及. サンシニア会. 2018, 3/4.

佐藤寿哲

著書

1. 佐藤寿哲. 6章2節母子保健サービスの現状. 流石智子監修, 浦田雅夫編知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉. 第3版教育情報出版. 2016, 80-2.

原著（査読あり）

1. 源氏詩乃, 佐藤寿哲. 幼児へのプレパレーションに親が参加するときの関わり方の特徴とその効果. 森ノ宮医療大学紀要 2016, 9・10, 189-97.
2. 重年清香, 藤本美穂, 吉川彰二, 清水容子, 佐藤寿哲, 吉川有葵. 本学看護学科における解剖見学実習による学生の学び -KH Coderによる実習後課題レポートの内容分析より. 森ノ宮医療大学紀要 2016, 9・10, 199-208.
3. 吉川有葵, 清水容子, 佐藤寿哲, 吉川彰二, 重年清香, 藤本美穂. 本学看護学科における解剖見学実習による学生の学びと今後の課題 - 2年間の実習後アンケート調査の比較検討より -. 森ノ宮医療大学紀要 2016, 9・10, 251-57.
4. 佐藤寿哲. 医療分野における子どもの自己決定権に関する文献レビュー. 大阪総合保育大学紀要

2016, 11, 205-18.

5. 佐藤寿哲. キワニスドール®への描画によって表出された入院中の幼児の思い—思いを表出させる援助の意義—. 大阪青山大学看護学ジャーナル 2017, 1, 21-6.
6. 佐藤寿哲, 藤本美穂, 西順子, 黄波戸航, 吉川彰二. 小児看護学実習における重症心身障害児施設での学生の学び—コミュニケーションと小児看護学特有の学びに着目して—. 大阪青山大学看護学ジャーナル 2017, 1, 27-35.

原著（査読なし）

1. 佐藤寿哲. 「ホネホネサミット 2016 in 高知」看護学科による「フクロウのペリット解剖体験」出展の挑戦. 認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター News Letter, 2016, 52, 6-8.

活動報告

1. 古屋肇子, 野村幸子, 阿部真幸, 葛場美那, 佐藤寿哲, 瀬戸口要子, 古谷昭雄. 看護学科学生の解剖見学実習の意義. 大阪青山大学紀要 2016, 8, 97-105.

学会発表

1. 佐藤寿哲. 大学生の診察時における権利の主体性に関する調査—A大学の全学生を対象としたアンケート調査から—. 日本小児看護学会第27回学術集会（京都）. 2017.
2. 佐藤寿哲, 藤本美穂, 西順子, 黄波戸航, 吉川彰二. 重症心身障害児施設における小児看護学実習での学生の学び. 第36回日本看護科学学会学術集会（東京）. 2016.

社会活動

1. 佐藤寿哲. 大阪青山大学看護学科 S 研 angels. 「フクロウのペリット解剖体験」（出展）. ホネホネサミット 2016 in 高知（四国自然史科学研究センター主催）高知大学朝倉キャンパス, 2016, 2.
2. 佐藤寿哲. 看護の統合（災害看護学）16時間（8回）. JCHO 大阪病院附属看護専門学校 2016, 4.
3. 佐藤寿哲, 古屋肇子, 岡崎紀子. 看護フェスタ 2016「子どもの心肺蘇生を含めた BLS」. 大阪府看護協会府北西支部主催. 2016, 5.
4. 佐藤寿哲. 天神祭救護班（大阪）. 2016, 7.
5. 佐藤寿哲. 平成 28 年度大阪中学生サマーセミナー講座「フクロウのペリット解剖体験！君も Bones だ！」大学コンソーシアム大阪. 大阪中学生サマーセミナー協議会主催（大阪青山大学）. 2016, 8.
6. 佐藤寿哲, 大阪青山大学 S 研 angels. 大阪自然史フェスティバル 2016 出展（大阪市立自然史博物館）. 2016, 11.
7. 佐藤寿哲, 幹太. ホネホネサミット 2017 出展（大阪市立自然史博物館）. 2017, 2.
8. 佐藤寿哲. 看護の統合（災害看護学）16時間（8回）. JCHO 大阪病院附属看護専門学校 2017, 4.
9. 佐藤寿哲. 天神祭救護班（大阪）. 2017, 7.
10. 佐藤寿哲. 平成 29 年度大阪中学生サマーセミナー講座「楽しく学ぼう、きっとできる応急処置」大学コンソーシアム大阪. 大阪中学生サマーセミナー協議会主催（大阪青山大学）. 2017, 8.

講演

1. 佐藤寿哲. 看護系進路に関するガイダンス (羽衣学園高等学校). 2017, 9.

塩野徳史

原著 (査読あり)

1. 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 塩野徳史, 新ヶ江章友, 伊藤俊広. Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan. *Sexual Health*, 2011, 8, 123-4.
2. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代. 日本成人男性における HIV および AIDS 感染拡大の状況—MSM(Men who have sex with men) と MSM 以外の男性との比較—. 厚生指標 2011, 58, 12-8.
3. コーナ・ジェーン, 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 辻宏幸, 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎. Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan. *Sexual Health*. Published online [http://dx. doi. org/10. 1071/SH11081](http://dx.doi.org/10.1071/SH11081). 2012.
4. 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一. 日本人男性における生涯での HIV 検査受検経験と関連要因. *日本エイズ学会誌* 2012, 14, 99-105.
5. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎. MSM(Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究. *公衆衛生雑誌* 2013, 60, 639-50.
6. Sherriff, N. Koerner, J. Kaneko, N. Shiono, S. Takaku, M. Boseley, R. Ichikawa, S: Everywhere in Japan: an international approach to working with commercial gay businesses in HIV prevention. *Health Promotion International* doi: 10. 1093/heapro/dav0969. 2015, 1-13.
7. 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 本間隆之, 岩橋恒太 :MSM における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割. *化学療法の領域* 2016, 32, 1029-38.
8. 金子典代, 塩野徳史, 内海眞, 山本政弘, 健山正男, 鬼塚哲郎, 伊藤俊広, 市川誠一 : 成人男性の HIV 検査受検, 知識, HIV 関連情報入手状況, HIV 陽性者の身近さの実態—2009 年調査と 2012 年調査の比較—. *日本エイズ学会誌* 2017, 19, 16-23.

原著 (査読なし)

1. 塩野徳史, 市川誠一. MSM の HIV 感染対策におけるコミュニティセンター事業の意義. *病原微生物検出情報* 31 巻 8 号 2010, 229-30.

学会発表 (国際)

1. Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Yuki Tada. Trends in the incidence of HIV and AIDS by decade of birth among MSM of Japanese nationality. The 11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific. (Bangkok)2013.

学会発表

1. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 伊藤俊宏. 日本成人男性における MSM (Men who have sex with men) 人口の推定. 第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会 (名古屋). 2009.
2. 塩野徳史, 市川誠一, 町登志雄, 内田優, 後藤大輔, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 金子典代, 山田創平. 近畿地域在住 MSM(Men who have sex with men) におけるコンドーム常用割合の推移と予防介入の効果評価に関する研究. 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2010.
3. 塩野徳史, 岩橋恒太, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 生島嗣, 佐藤未光, 張由紀夫, 木南拓也, 砂川秀樹, 星野慎二, 木村哲, 岡慎一. 首都圏地域在住 MSM(Men who have sex with men) における性行動と年齢層の関連. 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2010.
4. 塩野徳史, 高野操, 木村哲, 岡慎一, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 岳中美江. 阪神圏における医療機関, 保健所等の検査機関における受検者動向と介入評価に関する研究 (2009 年～2010 年) - エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2011.
5. 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 生島嗣, 鬼塚哲郎. ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究. 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2011.
6. 塩野徳史. 愛媛県在住 MSM における居住地別 HaaT えひめの活動認知と予防行動～HaaT えひめ WEB アンケート 2011 から～. テーマ部会Ⅱ「地方都市における MSM への HIV 予防啓発プログラム」. 第 28 回日本解放社会学会大会 (松山). 2012.
7. 塩野徳史, 川畑拓也, 大里和久, 古林敬一, 岩佐厚, 亀岡博, 田端運久, 高田昌彦, 菅野展史, 市川誠一. 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度) - 第 3 報 受検者の特性 -. 第 25 回日本性感染症学会学術集会・総会 (岐阜). 2012.
8. 塩野徳史, 新山賢, 市川誠一. 愛媛県在住 MSM における居住地別 HaaT えひめの活動認知と予防行動. 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会 (横浜). 2012.
9. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代. MSM(Men who have sex with men) コミュニティにおけるゲイ向け商業施設利用者と非利用者の比較. 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会 (横浜). 2012.
10. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄. MSM 向け予防啓発大規模イベントの継続が大阪の MSM コミュニティに与えた効果. 第 53 回日本社会医学会総会 (大阪). 2012.
11. 塩野徳史. HIV 抗体検査受検者の特性 -8 都府県の保健所受検者調査の結果から- (HIV 検査の体制-早期発見と早期治療に向けて). 第 28 回日本エイズ学会学術集会・総会 (大阪). 2014.
12. 佐々木由理, 市川誠一, 塩野徳史, 金子典代, 萬田和志. 全国 8 都府県の保健所等と郵送 HIV 抗体検査受検者の特性について. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
13. 細井舞子, 安井典子, 青木理恵, 安保貴行, 松村直樹, 奥町彰礼, 廣川秀徹, 半羽宏之, 松本健二, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 塩野徳史. ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 検査受検経験及び関連する要因. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
14. 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子. コミュニティセンター dista における HIV 抗体検査の意義. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東

- 京). 2015.
15. 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 安井典子, 細井舞子. コミュニティセンター dista 来場者の特性. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
 16. 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 大畑泰次郎, 塩野徳史, 町登志雄, 後藤大輔. コミュニティセンター dista における中高年層 MSM 来場者誘致プログラム「南界堂茶会」の効果評価. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
 17. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 町登志雄, 後藤大輔, 宮田りりい. 近畿地域在住の MSM (Men who have sex with men) における初性交時の予防行動に関連した要因—10 年間の変化—. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
 18. 川畑拓也, 森治代, 小島洋子, 駒野淳, 古林敬一, 岩佐厚, 田端運久, 亀岡博, 中村幸生, 杉本賢二, 近藤雅彦, 高田昌彦, 菅野展史, 塩野徳史, 柴田敏之. MSM 向け HIV 即日抗体検査における急性感染期の抗体陰性例の検出. 第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2015.
 19. 塩野徳史. エイズとコミュニティ -MASH 大阪とは何か?. シンポジウム 36「エイズをめぐる公衆衛生と LGBT 当事者団体との連携」第 75 回日本公衆衛生学会総会 (大阪). 2016.
 20. 塩野徳史. ゲイコミュニティにおける HIV 抗体検査—『これまで』と『これから』. シンポジウム 3「HIV 将来予測と流行阻止」第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 21. 塩野徳史. HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ. シンポジウム 4「スティグマの払拭は誰が担うのか」第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 22. 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 23. 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一. akta で展開したセーファーセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 24. 宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一. MSM における性交相手との出会いの場所と方法—年齢層による差異について—. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 25. 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい. MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンター dista 利用者の変化. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 26. 後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史. 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 27. 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下優. 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告. 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.
 28. Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi. Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia. The 31st Annual Meeting of the

Japanese Society for AIDS Research, (Tokyo). 2017.

29. 櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一. 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価. ワークショップ 3「検査・相談体制」第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 (東京). 2017.

研究報告書

1. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 伊藤俊宏. 日本成人男性における MSM 人口の推定と HIV/AIDS に関する意識調査. 男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究—平成 21 年度 総括・分担研究報告書—. 2010, 119-38.
2. 塩野徳史, 新ヶ江章友, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 内海眞, 石田敏彦, 藤浦裕二. 東海地域における MSM の予防行動に関する研究—NLGR 来場者調査から—. 男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究—平成 21 年度 総括・分担研究報告書—. 2010, 182-94.
3. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 町登志雄, 内田優, 中村祐子, 後藤大輔, 辻宏幸, 山田創平, 鬼塚哲郎. 大阪地域の予防介入プログラムの評価と HIV 感染予防行動の関連要因に関する研究—バー顧客調査 2009 年の結果—. 男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究—平成 21 年度 総括・分担研究報告書—. 2010, 195-243.
4. 塩野徳史, 太田貴, 高橋幸二, 小浜耕治, 伊藤俊広, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一. 東北地域の MSM における HIV 感染に関連した行動に関する研究—行動疫学調査の結果から—. 男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究—平成 22 年度 総括・分担研究報告書—. 2011, 152-67.
5. 塩野徳史, 石田敏彦, 内海眞, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一. 東海地域の MSM における性行動と予防介入プログラムの評価に関する研究. MSM の HIV 感染対策における企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 23 年度 総括・分担研究報告書—. 2011, 221-33.
6. 塩野徳史, 新山賢, 金子典代, 市川誠一. 愛媛県在住の MSM における HIV に関連した状況に関する研究—HaaT えひめ WEB アンケート 2011 の結果—. MSM の HIV 感染対策における企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 23 年度 総括・分担研究報告書—. 2012, 221-33.
7. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理. HIV 抗体検査受検者における特性と介入の効果評価に関する研究—HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査 2012—. MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 24 年度 総括・分担研究報告書—. 2013, 273-92.
8. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代. 日本の MSM(Men who have sex with men) における地域ブロック別 HIV 感染者および AIDS 患者の動向とゲイ向け商業施設利用に関する研究. MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 24 年度 総括・分担研究報告書—. 2013, 247-67.
9. 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代. 日本の成人男性および成人女性における個別施策層の状況と HIV 抗体検査行動、性行動に関する研究. MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 25 年度 総括・分担研究報告書—. 2014, 303-20.

10. 塩野徳史, 佐々木由理, 市川誠一, 金子典代, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男. HIV 抗体検査受検者における特性と介入の効果評価に関する研究— HIV 抗体検査を受検する人を対象とした質問紙調査—. MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究—平成 23 年度～ 25 年度 総合研究報告書—. 2014, 127-71.
11. 塩野徳史, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田良, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 新山賢, 岡崎好晃, 大山治彦, 松本健二, 半羽宏之, 安井典子, 細井舞子, 永井仁美. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価—初性交時周辺に焦点をあてた予防介入—. 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究—平成 26 年度 総括・分担研究報告書—. 2015, 61-115.
12. 塩野徳史, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田良, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 新山賢, 岡崎好晃, 大山治彦, 松本健二, 半羽宏之, 安井典子, 細井舞子, 柴田敏之. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価—初性交時周辺に焦点をあてた予防介入—. 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究—平成 27 年度 総括・分担研究報告書—. 2016, 91-130.
13. 塩野徳史. ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究. ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究 平成 27 年度 総括研究報告書. 2016.
14. 塩野徳史, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 飯塚諒, 新山賢, 松本健二, 半羽宏之, 安井典子, 細井舞子, 柴田敏之. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価—初性交時周辺に焦点をあてた予防介入—. 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究—平成 28 年度 総括・分担研究報告書—. 2017, 95-124.
15. 塩野徳史, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 飯塚諒, 新山賢, 松本健二, 半羽宏之, 安井典子, 細井舞子, 柴田敏之. 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価—初性交時周辺に焦点をあてた予防介入—. 男性同性間の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究—平成 26 年度～ 28 年度 総合研究報告書—. 2017, 105-23.
16. 塩野徳史. ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究. ゲイコミュニティにおけるコホートの構築と HIV および梅毒罹患率の推計に関する研究 平成 28 年度 総括研究報告書. 2017.

島田良子

原著 (査読あり)

1. Watanabe T, Shimada R, Matsuyama A, Yuasa M, Sawamura H, Yoshida E, Suzuki K. Antitumor activity of the β -glucan paramylon from *Euglena* against preneoplastic colonic aberrant crypt foci in mice. *Food Func.*, 2013, 4, 1685-90.
2. Sawamura H, Ishii Y, Shimada R, Yuasa M, Negoro M, Watanabe T. Low level of maternal biotin intake changes the expression of biotin transporter in dams and fetuses in mice. *Int J Anal Bio-Sci.*

2014, 2, 126-34.

3. Sawamura H, Ikeda C, Shimada R, Yoshii Y, Watanabe T. Dietary intake of high-dose biotin inhibits spermatogenesis in young rats. *Congenit Anom.* 2015, 55, 31-6.
4. Shimada R, Ebihara K. Plasma GLP-1 concentration and dipeptidyl peptidase-4 activity in rats fed partially hydrolyzed guar gum are affected, not plasma PYY concentration by cecectomy. *Jpn Pharmacol Ther.*, 2015, 43, 1481-6.
5. Shimada R, Yoshimura M, Murakami K, Ebihara K. Plasma concentrations of GLP-1 and PYY in rats fed dietary fiber depend on the fermentability of dietary fiber and respond to an altered diet. *Int J Clin Nutr Diet*, 2015, 1, 103 (7 pages).
6. Yuasa M, Aoyama Y, Shimada R, Sawamura H, Ebara S, Negoro M, Fukui T, Watanabe T. Effects of biotin deficiency on biotinylated proteins and biotin-related genes in rat brain. *J Nutr Sci Vitaminol*, 2016, 62, 81-7.
7. Shimada R, Tachibe M, Ebihara K. Type 4 resistant starch (RS-4) enriched breads increase portal vein plasma GLP-1 and PYY concentrations in rats. *Jpn Pharmacol Ther.*, 2016, 44, 1005-11.
8. Shimada R, Fujita M, Yuasa M, Sawamura H, Watanabe T, Nakashima A, Suzuki K. Oral administration of green alga, *Euglena gracilis*, inhibits hyperglycemia in OLETF rats, a model of spontaneous type 2 diabetes. *Food Funct.*, 2016, 7, 4655-9.
9. Shimada R, Oku K, Katayama M, Takano A, Sugawa-Katayama Y. Effects of young barley leaf powder on irritable bowel syndrome in rats. *Trance Nutr Res.*, 2016, 33, 106-11.
10. Sugawa-Katayama Y, Oku K, Katayama M, Shimada R, Yamaguchi Y, Murakami K, Kamiya T, Ikeguchi M. Suppressive effect of dietary young barley leaf powder on colonic aberrant crypt foci induced by 12-dimethylhydrazine in mice. *Luminacoids Res.* 2017, 21, 9-18.
11. Shimada R, Ebihara K. Soybean amplifies the hypohomocysteinemic effect of betaine and improves its hypercholesterolemic effect. *Biosci Biotech Biochem.*, 2017, (Publpageshed online: 06 Dec 2017).

国際会議

1. Shimada R, Ikeda C, Sawamura H, Watanabe T. Excessive intake of biotin affects spermatogenesis in young male rats. *Teratology Society 52nd Annual Meeting.* (Baltimore) 2012.
2. Watanabe T, Shimada R, Yuasa M, Sawamura H, Ebara S. Excessive biotin intake affects liver and reproductive function in growing male rats. *6th Thailand Congress of Nutrition.* (Bangkok) 2012.
3. Shimada R, Sugawa-Katayama Y, Oku K, Ebihara K. Plasma GLP-1 concentration is increased in non-operates rats fed fermentable dietary fiber, but non in cecectimized rats. *12th Asian Congress of Nutrition* (Yokohama). 2015.
4. Shimada R, Sugawa-Katayama Y, Ebihara K. Decrease of plasma GLP-1 concentration and DPP-4 activity in rats fed partially hydrolysed guar gum by cecectomy. *6th International Dietary Fibre Conference.* (Paris) 2015.
5. Sugawa-Katayama Y, Oku K, Shimada R, Takano A, Kamiya T, Yamaguchi K, Takagaki K. Preventive effect of young barley leaf powder in a restraint stress-induced irritable bowel syndrome model. *6th*

International Dietary Fibre Conference (Paris). 2015.

6. Shimada R, Katayama M, Takano A, Sugawa-Katayama Y. Effects of the particle size of young barley leaf powder on intestinal bacterial flora in rats. IUNS 21st International Congress of Nutrition (Buenos Aires). 2017.

学会発表

1. 島田良子, 澤村弘美, 福井徹, 渡邊敏明. ラットにおいてビオチン過剰摂取はカルボキシラーゼの発現に影響するか? 第 65 回 日本栄養・食糧学会大会 (東京). 2011.
2. 石井佳江, 島田良子, 澤村弘美, 福井徹, 渡邊敏明. ビオチン欠乏状態のビオチン関連タンパク質の発現への影響. 第 63 回日本ビタミン学会大会 (広島). 2011.
3. 湯浅正洋, 木岡未央, 北本侑子, 島田良子, 松井朝義, 渡邊敏明. 災害時におけるビタミン栄養状態についての再検討. 日本栄養・食糧学会第 50 回近畿支部大会 (奈良). 2011.
4. 島田良子, 澤村弘美, 渡邊敏明. ビオチン過剰ラットにおけるタンパク質発現に関する研究. 第 427 回ビタミン B 研究委員会研究協議会 (京都). 2012.
5. 島田良子, 澤村弘美, 渡邊敏明. ラットにおけるビオチン過剰摂取が肝臓に及ぼす影響. 第 64 回日本ビタミン学会大会 (岐阜). 2012.
6. 渡邊敏明, 島田良子, 松山愛, 湯浅正洋, 澤村弘美, 吉田絵梨子, 鈴木健吾. マウスにおけるユーグレナの大腸がん抑制効果についての検討. 第 18 回食物繊維学会学術集会. (越前) 2013.
7. 島田良子, 藤田三穂, 湯浅正洋, 澤村弘美, 渡邊敏明, 吉田絵梨子, 鈴木健吾. 自然発症 2 型糖尿病ラットにおけるユーグレナの血糖値上昇抑制効果についての検討. 第 31 回日本微量栄養素学会学術集会 (吹田). 2014.
8. Shimada R, Sawamura H, Watanabe T, Imai M, Nakano Y, Yoshida E, Suzuki K. No teratogenic effects of β -glucan paramylon from *Euglena* in mice. 第 54 回日本先天異常学会学術集会 (相模原). 2014.
9. 岸岡沙帆, 石井優季, 渡邊涼子, 島田良子, 渡邊敏明, 関口博太, 須藤慶太, 宇住晃治. マウスにおける核酸の胎児発育および形態形成に及ぼす影響. 第 56 回日本先天異常学会学術集会 (姫路). 2016.
10. 島田良子, 奥和之, 片山眞之, 高野晃, 片山 (須川) 洋子. 過敏性腸症候群に対する大麦若葉末の緩和効果. 第 55 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会 (堺). 2016.
11. 島田良子, 奥和之, 片山眞之, 片山 (須川) 洋子. 過敏性腸症候群に対する食物繊維の影響. 第 22 回 Hindgut Club Japan シンポジウム (東京). 2016
12. 島田良子, 片山 (須川) 洋子, 海老原清. グァーガム酵素分解物およびレジスタントスターチ摂取が及ぼす大腸中 GLP-1 濃度の変化. 第 71 回日本栄養・食糧学会大会 (宜野湾). 2017.
13. Sawamura H, Shimada R, Ebara s., Watanabe T. Dietary intake of high-dose biotin inhibits spermatogenesis in young rats. 第 57 回日本先天異常学会学術集会 (東京). 2017.
14. 島田良子, 吉村美紀, 海老原清. レジスタントスターチ・タイプ 4 添加パンは、ラットの血中 GLP-1 濃度を上昇させる. 第 16 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会 (箕面). 2017.
15. 吉村智春, 花井友美, 島田良子, 東根裕子, 奥和之, 藤原政喜. 大阪伝統野菜の抗酸化性とトレハロースによる安定化. 第 16 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会 (箕面). 2017.

16. 田中彩乃, 吉村智春, 島田良子, 奥和之, 藤原政嘉. ダリア球根抽出物の食後血糖上昇抑制作用. 第16回日本栄養改善学会近畿支部学術総会(箕面). 2017.

講演

1. 島田良子. 消化されないデンプン、レジスタントスターチってなに?! 食物繊維と何が違う?! 第16回日本栄養改善学会近畿支部学術総会(箕面)ランチョンセミナー. 2017.

監修

1. 海老原清, 島田良子. カリフォルニア・レーズンに豊富な食物繊維を学ぼう! カリフォルニア・レーズン レポート No.80. カリフォルニア・レーズン協会. 2017.

特許

1. 鈴木健吾, 吉田絵梨子, 渡邊敏明, 島田良子. 糖尿病抑制剤. 2012年12月出願, 公開番号: 特開2014-118374.

炭原加代

著書

1. 遠藤誠之, 大橋一友, 梶本恵津子, 金山智子, 熊澤恵一, 酒井規夫, 白石三恵, 炭原加代, 竹林佳子, 田中恵子, 葉久真理, 渡邊浩子. 大橋一友 医学監修, 葉久真理編. 2018年 新出題基準別 助産師国家試験問題 過去5回分完全収載!. メディカ出版 2017.

寄稿

1. 炭原加代, 西堀幸子, 新增有加. 母性看護学の現状と課題. 大阪青山大学看護学ジャーナル. 2017, 1, 65-71.

田岡昌大

原著 (査読あり)

1. 田岡昌大, 及川智博. 城戸幡太郎の保育者論の現代的意義: 教養と技術の関係に着目して——教育学の研究と実践. 2017, 12, 1-11.

原著 (査読なし)

1. 田岡昌大. 教育学として Development をどのように議論しうるか 子ども発達臨床研究. 2014, 6, 81-90.
2. 田岡昌大. 新渡戸稲造の道徳における教育学的意義 北海道大学大学院教育学研究院紀要. 2016, 6, 81-90.
3. 田岡昌大. 戦後における城戸幡太郎の幼児教育論: 『幼児教育論』以後の異同について 子ども発達臨床研究. 2017, 9, 1-12.

研究ノート（査読あり）

1. 田岡昌大. 「戦後教育学」批判の可能性 教育学の研究と実践. 2013, 8, 11-20.

学会発表

1. 田岡昌大. 教育学における「教養」をめぐる問題. 北海道教育学会第 55 回研究発表大会（釧路）. 2011.
2. 田岡昌大. 教育学の「政治」的側面と今日的課題について：堀尾輝久における「発達」の位置づけを基点にして. 北海道教育学会第 56 回研究発表大会（札幌）. 2012.
3. 田岡昌大. 「公共性」に対する教育の位置づけについて：「地域」との関係の再評価を通じた再検討. 北海道教育学会第 57 回研究発表大会（名寄）. 2013.
4. 田岡昌大. 戦後日本における教育学と「教養」の関係性について. 日本教育学会第 72 回大会（東京）. 2013.
5. 田岡昌大. 教育目的概念としての「教養」の基本構造について. 北海道教育学会第 58 回研究発表大会（恵庭）. 2014.
6. 田岡昌大. 人格主義的教養論の可能性：新渡戸稲造の「修養」と教育学の「教養」の関係をめぐって. 北海道教育学会第 59 回研究発表大会（札幌）. 2015.
7. 田岡昌大, 及川智博, 城戸幡太郎の幼児教育論に関する一考察：保育者の位置づけに着目して. 北海道教育学会第 60 回研究発表大会（札幌）. 2016.
8. 田岡昌大. 城戸幡太郎の教育思想における生活技術と教養. 日本教育学会第 75 回大会（札幌）. 2016.
9. 田岡昌大, 及川智博. 『幼児教育論』以後における城戸幡太郎の保育思想：その展開と評価. 北海道教育学会第 61 回研究発表大会（札幌）. 2017.
10. 田岡昌大. 戦後期における城戸幡太郎の「ヒューマニズム」について. 教育哲学会第 60 回大会.（大阪）. 2017.
11. 田岡昌大. 城戸幡太郎による「臨床教育学の提唱」と実践性. 心理科学研究会 2017 年秋の全国研究集会（名古屋）. 2017.

社会活動

1. 明田川知美, 菅原健太, 田岡昌大, 渡辺舞. 保育系専門学校における「学び」のあり方. 合同教育研究全道集会 2016（札幌）. 2016, 11.
2. 田岡昌大. 教育研究から見た保育指針. 大阪保育研究所研究集会シンポジウム 1「保育指針を乗り越える」（大阪）. 2018, 3.
3. 田岡昌大. 第 57 回全国保育問題研究会兵庫集会 実行委員. 2017（現在に至る）.

助成

1. 田岡昌大. 新渡戸稲造における「教養」（「修養」）思想に関する教育学的研究. 新渡戸基金研究助成. 2014.

田口修三

原著（査読あり）

1. 中山裕紀子, 中辻直人, 高取 聡, 小阪田正和, 福井直樹, 北川陽子, 岡本（柿本）葉, 柿本幸子, 田口修三, 尾花裕孝. りんごジュース中のパツリンの検査結果 - 平成 18-22 年, 大阪府立公衆衛生研究所研究報告. 2011, 49, 11-4.
2. Sawabe Y, Tagami T, Doi T, Yamasaki K, Taguchi S. Analysis of iodothyronines in dietary supplements containing dried thyroid by HPLC using a pre-column derivative. Food Anal. Methods. 2012, 5, 1033-9.

徳留由貴

原著（査読あり）

1. 徳留由貴. 複数の支援児が在籍するクラスにおけるインクルーシブ保育の事例的検討. 教育科学研究. 2018, 32, 23-30.

学会発表

1. 吉田由貴. 荒れたクラスの立て直し過程. 心理科学研究会「秋の研究集会」遊び分科会（仙台）. 2014.
2. 吉田由貴. 荒れたクラスの立て直し過程. 日本保育学会第 67 回大会（名古屋）. 2015.
3. 沼田あや子, 吉田由貴, 武村知保, 米澤篤代. 日本における Narrative Inquiry の試み—小学校実践での課題と展望—. 日本臨床教育学会・北海道臨床教育学会第 5 回大会（札幌）. 2015.
4. 吉田由貴. 保育園 2 歳児クラスにおける共感関係を育む保育者連携のあり方. 日本保育学会第 68 回大会（小金井）. 2016.
5. 沼田あや子, 吉田由貴, 武村知保, 米澤篤代. 日本における Narrative Inquiry の試み (2)—小学校実践から見えてきた展望—. 日本臨床教育学会・北海道臨床教育学会第 6 回大会（京都）. 2016.
6. 徳留由貴. 保育困難な状況に関する研究. 日本保育学会第 70 回大会（倉敷）. 2017.

出張講義

1. 沼田あや子, 吉田由貴, 武村知保, 米澤篤代. 日本における Narrative Inquiry の試み —小学校実践での課題と展望—. 東京大学大学院教職開発・理論研究 田中昌弥「ナラティブ的探求と教育学的認識論」講義内. 2015, 10.

中西康人

原著（査読あり）

1. 松島正知, 中西増代, 中西康人, 植杉優一, 矢野澄雄, 伊東太郎, トランポリン競技の踏切における筋活動と滞空時間との関連. 体育・スポーツ科学. 2017, 31, 31-6.
2. 植杉優一, 中西増代, 中西康人, 松島正知, 渡邊完児, 伊東太郎, 軽症糖尿病性末梢神経障害患

者の歩行における足圧と下腿筋電図の特徴. 日本健康体力栄養学会. 2017, 21, 1-12.

学会発表

1. Kinoshita H, Okuno R, Nakanishi Y, Higashi T. Development of a pegboard for automated time measurement of individual's peg and hand motion. European Congress of Neuro-Rehabilitation in 2017(Lausanne) . 2017.
2. 木下博, 奥野竜平, 中西康人, 東登志夫. ペグの抜き差しタイミング計測可能なペグボードの試作. 第38回バイオメカニズム学術講演会(別府). 2017.

永井正幸

業績

1. 永井正幸. (主催) 大阪青山大学 / 大阪青山大学短期大学部 50周年記念公開講座 ピアノ演奏と西洋音楽のおはなし ~バロックから現代まで~. バッハ, モーツァルト, ベートーベン, ショパン, ドビュッシー, ラフマニノフ, シューベルクなどの作品演奏及び解説. 大阪青山大学箕面キャンパス4号館大講義室. 2017, 10.
2. 永井正幸. (主催) 宝塚演奏家連盟. 「素晴らしき音楽仲間たち Part25. モーツァルトの作品を室内音楽楽団と演奏」. 宝塚市立文化施設ベガ・ホール. 2017, 11.
3. 永井正幸. (主催) アート・クラブ. 「永井正幸 ピアノリサイタル」. シューベルト, リストの作品を演奏. 世羅美術館. 2017, 12.
4. 永井正幸. (主催) 全国大学音楽教育学会 関西地区学会 平成29年度後期研究会. オギンスキ, シマノフスカ, モニウシュコ, シマノフスキの作品を研究演奏発表. 三木楽器開成館. 2018, 1.

審査活動

1. 永井正幸. 第16回宝塚ベガ学生ピアノコンクール審査員. 宝塚市立文化施設ベガ・ホール. 2017, 8-10.
2. 永井正幸. 第11回ベートン音楽コンクール関西地区予選審査員. 大阪音楽大学ミレニウムホール. 2017, 8.
3. 永井正幸. 第27回日本クラシック音楽コンクール京都本線本選審査員. 京都府民ホール・ALTI. 2017, 10.
4. 永井正幸. 第34回JPTAピアノオーディション関西地区予選審査員. 川西市みつなかホール内文化サロン. 2017, 8・11.
5. 永井正幸. スガナミピアノコンクール2017 審査員. 明石市立西部市民会館. 2017, 11.
6. 永井正幸. 第3回ヤマハジュニアピアノコンクール大阪・奈良・沖縄地区予選審査員. 大阪国際交流センター大ホール. 2018, 3.

萩原憲二

学会発表

1. 萩原憲二, 川上雅弘, 安積典子, 山内保典, 仲矢史雄, 片桐昌直. アクティブ・ラーニングの手法を用いた小学校教員理科研修プログラムの開発. 1G2-A4 日本科学教育学会 第41回年会(高松). 2017, 8.

講演

1. 萩原憲二. 理科教育の基本と充実～「理科めっちゃ好き！」の子どもを育てる～. 平成29年度八尾柏原藤井寺3市合同研修会. 大阪教育大学柏原キャンパス. 2017, 8/7, 8.
2. 萩原憲二. 文部科学省「教員免許状更新講習」講師. 理科教育・情報教育担当. 2017, 8/23-24.

社会活動

1. 萩原憲二. 平成29年度大阪中学校サマー・セミナー講座「プログラムロボットを動かそう～レゴ・マインドストームEV3を使って～」. 大学コンソーシアム大阪. 大阪中学生サマー・セミナー協議会主催. 2017, 8/22.
2. 萩原憲二. “めざせ！すご技！ 結晶の花を咲かそうを作ろう” 化学の日 子ども化学実験ショー 2017. キッズプラザ大阪. 2017, 10/21-22.
3. 萩原憲二. こども実験教室「歯ブラシロボットをつくろう！」. 池田市中央公民館. 2017, 12/10.

平澤久一

学会発表

1. 平澤久一. 表情看護 表情理論と実践の統合, 第27回日本精神保健看護学会(札幌). 2017.

社会活動

1. 平澤久一. 日本精神保健看護学会 第27回学術集会, ワークショップ(表情看護 その4)企画・運営, 座長(札幌). 2017.
2. 平澤久一. 久米田看護専門学校 精神保健非常勤講師. 2017.
3. 平澤久一. ためなが温泉病院 看護記録方式(フォーカスチャーティング)研修会講師. 2017.
4. 平澤久一. 関西精神力動看護研究会 主宰, 運営, 司会, 講演, 2007(現在に至る).
5. 平澤久一. 中・四国地区精神力動研究会 主宰, 運営, 司会, 講演, 2008(現在に至る).

藤原正恵

原著(査読あり)

1. 葛場美那, 藤原正恵. 我が国の看護基礎教育におけるシミュレーション教育の現状とその効果に関する文献検討. 大阪青山大学看護学ジャーナル. 2017, 1, 9-20.

古谷昭雄

原著（査読あり）

1. 古谷昭雄, 沢 勲, 中岡愛彦, 久森洋昭, 中 良紀. 大阪府摂津市・平安時代・藤森神社の由来と鳥居—文化と健康—. 洞窟環境 NET 学会紀要. 2017, 3, 171-88.
2. 古谷昭雄, 久森洋昭, 中岡愛彦, 沢 勲. 大阪府三島郡島本町 水瀬瀬神宮の由来と文化—食と健康—. 洞窟環境 NET 学会紀要. 2017, 3, 241-58.

学会発表

1. 古谷昭雄, 小石真子, 北村佐恵子. 屋外分煙後の喫煙に対する教職員の意識調査. 第6回日本タバコフリー学会学術大会（東京）. 2017.
2. 古谷昭雄, 小石真子. 喫煙に対する介護福祉施設職員の意識調査. 第76回日本公衆衛生学会総会（鹿児島）. 2017.
3. 古谷昭雄, 小石真子, 田中富美子. 認知症対応型共同生活介護における日常生活ケアの集団支援に関する一考察—予防のためのゲームの試み. 日本老年行動科学会第20回東京大会（東京）. 2017.

社会活動

1. 古谷昭雄. 認知症の治療とケアを考えるシンポジウム. コーディネーター. 2017.
2. 古谷昭雄. 抗がん剤曝露の現状と安全対策. 総合司会. 2017.

古屋肇子

著書

1. 古屋肇子. 8章1節子どもの歯の健康と発達. 高内正子編心とからだを育む 子どもの保健Ⅱ（演習）. 保育出版社. 2013, 58-9.

原著（査読あり）

1. 古屋肇子, 南波香織, 吉川貴仁, 佐古恵利子, 平野治彦, 高橋恵利, 石垣恭子, 藤本繁夫. 新入大学生のアルコール体質検査とアンケートによる飲酒意識について. CAMPUS HEALTH. 2015, 52, 71-6.
2. 古屋肇子, 水野（松本）由子, 石垣 恭子, 西村治彦. 女性看護師のメンタルヘルスへの家族構成とサポートの影響分析. 日本感性工学会論文誌. 2017, 16, 449-56.

研究報告（査読あり）

1. 古屋肇子, 谷冬彦. 看護師のバーンアウト生起から離職願望に至るプロセスモデルの検討. 日本看護科学学会誌. 2008, 28, 55-61.

活動報告

1. 古屋肇子, 野村幸子, 阿部真幸, 葛場美那, 佐藤寿哲, 瀬戸口要子, 古谷昭雄. 看護学科学学生の

解剖見学実習の意義. 大阪青山大学紀要. 2015, 8, 97-105.

学会発表

1. 古屋肇子, 谷冬彦. 看護師のバーンアウト生起から離職願望に至るプロセスモデルの検討. 日本心理学会第66回大会(広島). 2001.
2. 古屋肇子, 浅川潔. 看護師の職務満足とストレスの関連について. 日本心理学会第70回大会(吹田). 2002.
3. 古屋肇子. 乳児院における心理療法と愛着形成. 日本心理臨床学会第25回大会(吹田). 2003.
4. 古屋肇子, 石垣恭子. 看護師の役割葛藤場面におけるストレス対処尺度作成の試み. 第26回日本看護科学学会学術集会(神戸). 2003.
5. Furuya H, Ishigaki K, Nakaue M. The relationship between job environment and intention to quit among nurses. The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science in Kobe Program 136.B26. (Kobe). 2006.
6. 古屋肇子, 水野(松本)由子, 石垣 恭子, 西村治彦. 女性看護師の職業環境におけるストレス要因と心身反応. 第12回日本感性工学会春季大会(大阪). 2017.

社会活動

1. 佐藤寿哲, 古屋肇子, 岡崎紀子. 看護フェスタ2016(大阪府看護協会府北西支部)子どもの心肺蘇生を含めたBLS体験ブース担当. 2016, 5.
2. 古屋肇子. お口の中の話. 学生支援室ミニ講座. 2017, 1.

道廣睦子

原著論文(査読あり)

1. 道廣睦子, 関谷まり, 阿部真幸. 看護大学生のストレスとソーシャルサポートネットワークと精神的健康度との関連. インターナショナル Nursing Care Research. 2016, 15, 1-10.

学会発表

1. 道廣睦子, 関谷まり, 阿部真幸. 新設看護大学1年目における学生のストレスとソーシャルサポートネットワークと精神的健康度との関連. 第36回日本看護科学学会学術集会(東京). 2016.

村田トオル

著書

1. 村田トオル. 第3部実技編第5章トピック7かかわりの妙~主役は子どもに徹する, 第4部普及啓発編第6章幼稚園・保育所での指導のコツ. 竹中晃二編著『子どものプレイフルネスを育てる』. サンライフ企画. 公益財団法人日本体育協会. 2017, 58-9, 106-9.
2. 村田トオル. 第15章就学前に育むこと. 谷田貝公昭・高橋弥生編著『実践保育内シリーズ健康』. 一藝社. 2017, 172-83.

原著（査読あり）

1. 常行泰子, 村田トオル. コーチ育成の視点から捉えた運動・スポーツ指導者の知識と技能・実践経験に関する研究. 身体運動文化学会関西支部「身体運動文化論攷 16」. 2017, 16, 25-42.

依頼原稿

1. 村田トオル. 運動習慣は幼児期から. NPO 法人日本健康運動指導士会会報. 2018, 159, 3-8.

その他刊行物

1. 村田トオル. 結婚を学ぶ意味. 棚橋美恵子事務所. グランエスペランザ. 2017, 1, 15.

教育講演

1. 村田トオル. 子どもの運動指導. 第36回日本臨床運動療法学会学術集会（大阪）. 2017.

メディア出演

1. 村田トオル. 明日香のPOP UP TIME. fmGIG. 2017, 9.

研究員およびプロジェクトメンバー

1. 村田トオル. アクティブヘルシーキッズジャパン地方版開発班. 2017, 4-2018, 3.

園内研究会（子どもの運動遊びの効果について）

1. 村田トオル. 富田保育所. 2017, 8.
2. 村田トオル. ハピウス保育園. 2017, 8.
3. 村田トオル. 東山ぼぼ保育園. 2017, 8.
4. 村田トオル. 東山ぼぼ保育園. 2017, 9.
5. 村田トオル. 宝塚市立安倉幼稚園. 2017, 11.
6. 村田トオル. 川西市久代幼稚園. 2017, 12.
7. 村田トオル. 川西市立久代幼稚園. 2018, 3.

研修会

1. 村田トオル. 幼児教育セミナー. 高槻市教育委員会. 2017, 5.
2. 村田トオル. 幼児教育セミナー. 高槻市教育委員会. 2017, 6.
3. 村田トオル. カウンセラー養成講習会. NPO 法人日本結婚教育カウンセラー協会. 2017, 6.
4. 村田トオル. 幼児教育セミナー初任者向け. 奈良市教育委員会. 2017, 7.
5. 村田トオル. 幼児教育セミナー. NPO 法人ちゃいるどネット大阪. 2017, 7.
6. 村田トオル. 幼児教育セミナー. 三田市教育委員会. 2017, 7.
7. 村田トオル. 単位取得研修会. NPO 法人日本健康運動指導士会. 2017, 9.
8. 村田トオル. 単位取得研修会. NPO 法人日本健康運動指導士会長野県支部. 2017, 12.

子育て講演会（PTA 保護者会，子育てサークル等学習）

1. 村田トオル. 高槻市立郡家幼稚園 PTA. 2017, 5.
2. 村田トオル. 高砂市立米田幼稚園 PTA. 2017, 6.
3. 村田トオル. 子高槻市子ども未来部. 2017, 7.
4. 村田トオル. 高砂市立曾根幼稚園 PTA. 2017, 11.
5. 村田トオル. 三田市立広野幼稚園 PTA. 2018, 1.
6. 村田トオル. 高槻市立高槻小学校 PTA. 2018, 1.

公開講座

1. 村田トオル. 親子で元気っず体操. 大阪青山大学. 2018, 1.

ゲストスピーカー

1. 村田トオル. 子どもの発育と遊び. 同志社大学. 2017, 6.

助成

1. 常行泰子, 秋吉遼子, 村田トオル. 健康運動の指導法と地域活性化を目指す大学の運動・スポーツ事業に関する研究. 平成 28 年度～平成 30 年度 文部科学省科学研究費助成金（基盤研究 C）. 課題番号 16K01623.

渡邊敏明

著書

1. 渡邊敏明. お茶にも善玉菌を増やす効果があった！NHK 科学・環境番組部 主婦と生活社「NHK ガッテン」編集版編, NHK ガッテン「医者いらずの賢い食べ方」. 主婦と生活社. 2018, 56.

原著（査読あり）

1. 渡邊涼子, 岸岡沙帆, 渡邊敏明, 関口博太, 須藤慶太, 宇住晃治. 核酸高含有のサケ白子抽出物はマウスの生殖機能および胎児発育には影響しない. 微量栄養素研究. 2017, 34, 109-13.
2. 松尾拓哉, 竹森久美子, 鍛冶晃子, 渡邊敏明. 女子学生の食習慣が微量栄養素（亜鉛, ビオチン, 葉酸）の摂取量に及ぼす影響. 微量栄養素研究. 2017, 34, 59-65.

総説

1. Watanabe T. Neural tube defects and folic acid in Japan Prologue introduction – Understanding of the current status of Japan and the proposal from Japanese Teratology Society. Congenit Anom. 2017, 57, 128-9.
2. 中野長久, 大串美沙, 渡邊敏明. ユーグレナはどこまで高栄養食源として貢献し得るか—その機能と応用—. ビタミン. 2017, 91, 323-30.

学会発表

1. 中島綾香, 澤村弘美, 虞蒼静, 鈴木健吾, 渡邊敏明. ユーグレナおよびその貯蔵多糖パラミロン

の摂取による排便および腸内細菌叢に対する影響の検討. 第 21 回腸内細菌学会学術集会(神戸). 2017.

2. 松尾拓哉, 竹森久美子, 鍛冶晃子, 渡邊敏明. 女子学生の食習慣が亜鉛, ビオチン, 葉酸の摂取量に及ぼす影響. 第 34 回日本微量栄養学会学術集会 (吹田). 2017.
3. 澤村弘美, 島田良子, 榎原周平, 渡邊敏明. ビオチンの過剰摂取がラットにおける精子形成に及ぼす影響. 第 57 回日本先天異常学会学術集会 (東京). 2017.

研究報告書

1. 渡邊敏明, 渡邊涼子. ユーグレナ過剰摂取によるビタミン栄養状態及び腸内細菌についての研究. 平成 29 年度報告書. ユーグレナ (株).

ミニ講座

1. 渡邊敏明. 藻のおはなし③～藻類～. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.34, 1.
2. 渡邊敏明. 藻のおはなし④～海藻に含まれる機能性植物繊維～. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.35, 2.
3. 渡邊敏明. 藻のおはなし⑤～コンブの成分と栄養～. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.37, 4.
4. 渡邊敏明. 藻のおはなし⑥～コンブの生育と品質～. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.39, 6.
5. 渡邊敏明. 藻のおはなし⑦. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.41, 8.
6. 渡邊敏明. 世界の四大スープ. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.43, 10.
7. 渡邊敏明. みそ汁とスープ (Miso soup). マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2017, No.45, 12.
8. 渡邊敏明. 味噌と大豆. マエカワテイスト (株) 研究所だより. 2018, No.47, 2.

講演

1. 渡邊敏明. ミドリムシを食べよう! 大阪青山大学創立 50 周年記念「市民公開講座」. 2017, 9.
2. 渡邊敏明. ほんものを学ぼう! 天然だし. ホームカミングデー「教育セミナー」, 学校法人大和学園「京都栄養医療専門学校」. 2017, 9.
3. 渡邊敏明. 新潮流を掴め! 藻活のススメ, 健康博覧会 Food Produce Japan 2018「クロレラ連続セミナー」, 東京ビッグサイト. 2018, 2.

社会活動

日本ビタミン学会 功労会員
 生物試料分析学会 評議員、編集委員
 日本臨床栄養学会 評議員